

1. 教育目標

公衆衛生学は、疾病予防と健康増進を図る科学・技術である。集団を対象として健康の問題を取り扱う疫学の意義を理解し、環境保健、産業保健、地域保健、感染症疫学に関する講義、演習、実習を通じて、人の健康に影響を与える環境要因及び生活習慣を正しく評価するための研究方法を修得する。さらに、疾病を予防し、健康の維持増進をはかるための個人的及び組織的な公衆衛生学的活動を実践できる能力を身につける。

2. 到達目標

- (1) 公衆衛生学の意義と役割を説明できる。
- (2) 疫学研究の方法と諸指標について説明できる。
- (3) 環境中の汚染物質の現状と問題点について説明できる。
- (4) 環境汚染物質の生体影響について説明できる。
- (5) 環境汚染の健康影響を評価するための疫学研究を計画できる。
- (6) 呼吸機能検査、アレルギー検査を実施し、その結果を評価できる。
- (7) 保健指標の疫学的解析により、地域診断ができる。
- (8) 職域における産業保健活動が実践できる。
- (9) 海外勤務者の健康管理を行うことができる。
- (10) ワクチンの効果を正しく評価できる。

3. 成績評価の方法と基準

成績の評価は、本学で定められた「成績の評価基準」に基づき、到達目標に対する達成度及び修得すべき基礎知識・技能の修得度により行う。

課題におけるレポート提出（15%）、実験内容のレポート提出（15%）、口頭試問の実施（10%）、研究成果の発表（30%）、発表・討議の内容（30%）

4. 教科書・参考書

Oxford Textbook of Global Public Health (7th edition)、R Detels、QA Karim、F Baum、AH Leyland (Ed)、Oxford University Press (2021)

Modern Epidemiology (4th edition)、KJ Rothman、Wolters Kluwer (20)

国民衛生の動向（2022/2023）（月刊誌「厚生指標」増刊）、厚生労働統計協会（2022）

その他、必要に応じて参考資料等を配布する。

5. 準備学習

予習としては、関連文献を検索し、知識を整理して授業・実習に臨むこと。（1時間以上）

復習としては、授業内容の要点を整理し、ノートにまとめておくこと。（0.5～1時間程度）

6. フィードバック方法

当該年度修了時に提出する「研究計画書」、又は「研究進捗・指導状況報告書」によりフィードバックを実施する。

(第1学年・昼間開講)

【公衆衛生学】

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
講義	公衆衛生学概論	森本主任教授 大谷講師 余田教育講師	月/1限	半年	2	セミナー室
演習	研究経過報告と関連論文の抄読	森本主任教授 大谷講師 余田教育講師	火/3限	通年	4	セミナー室
実験研究	環境衛生試験法の基礎	大谷講師 余田教育講師	木/2・3限	通年	4	研究室
実習	疫学データの解析	大谷講師 余田教育講師	金/3・4限	通年	4	研究室

(第1学年・夜間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
講義	公衆衛生学概論	森本主任教授 大谷講師 余田教育講師	月/6限	半年	2	セミナー室
演習	研究経過報告と関連論文の抄読	森本主任教授 大谷講師 余田教育講師	月/7限	通年	4	セミナー室
実験研究	環境衛生試験法の基礎	大谷講師 余田教育講師	水/6・7限	通年	4	研究室
実習	疫学データの解析	大谷講師 余田教育講師	金/6・7限	通年	4	研究室

(第2学年・昼間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
演習	研究経過報告と関連論文の抄読	森本主任教授 大谷講師 余田教育講師	月/1限	半年	2	セミナー室
実験研究	環境因子への曝露とその生体内代謝に関する実験	大谷講師 余田教育講師	月/3限	通年	4	研究室
実験研究	細胞性免疫の測定法	大谷講師 余田教育講師	金/1・2限	通年	4	研究室

(第2学年・夜間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
演習	研究経過報告と関連論文の抄読	森本主任教授 大谷講師 余田教育講師	月/6限	半年	2	セミナー室
実習	環境因子への曝露とその生体内代謝に関する実験	大谷講師 余田教育講師	火/6・7限	通年	4	研究室
実験研究	細胞性免疫の測定法	大谷講師 余田教育講師	木/6・7限	通年	4	研究室